

# Statistical Mechanics

Toshiya Tanaka

April 11, 2022

## 1 磁性体の統計力学

### 1.1 方針

大まかな流れは、次のようである。

1. 分配関数の計算
2. エネルギー, 磁化, 磁化率の期待値の計算
3. 温度, 磁場に対する振る舞いを考察

この方針は変えず, 個々の系に対し様々なテクニックを使う。

### 1.2 すべての spin が独立にある場合

$N$  粒子系を考える。粒子  $j$  の spin を  $\sigma_j = \pm 1$  で指定し, スピン角運動量の固有値は  $\pm\mu_0$  とする。磁場  $H$  中にある系のエネルギー固有値は

$$E = - \sum_{j=1}^N \mu_0 \sigma_j H \quad (1.1)$$

で, 一つの粒子だけに注目したとき

$$E_j = -\mu_0 \sigma_j H \quad (1.2)$$

である。spin1 つの期待値は期待値の定義から

$$\langle \sigma_j \rangle = \frac{1}{Z_j(\beta)} (\mu_0 e^{\beta \mu_0 H} - \mu_0 e^{-\beta \mu_0 H}) \quad (1.3)$$

$$= \mu_0 \tanh(\beta \mu_0 H) \quad (1.4)$$

である。

独立なので, 一粒子の情報がわかれば十分で, 一粒子の分配関数は

$$Z_j(\beta) = e^{\beta \mu_0 H} + e^{-\beta \mu_0 H} \quad (1.5)$$

$$= 2 \cosh(\beta \mu_0 H) \quad (1.6)$$

である。よって,  $N$  粒子あったとき, 分配関数は

$$Z(\beta) = (2 \cosh(\beta \mu_0 H))^N \quad (1.7)$$

となる。エネルギー期待値は

$$\langle H \rangle = - \frac{\partial}{\partial \beta} \log(2 \cosh(\beta \mu_0 H)) \quad (1.8)$$

$$= -N \mu_0 H \tanh(\beta \mu_0 H) \quad (1.9)$$

である。

**Definition 1.1** (磁化)

磁化を

$$m = \frac{1}{N} \sum_{j=1}^N \mu_0 \sigma_j \quad (1.10)$$

と定める。スピンの平均値と思ってよい。

Table 1 Eq. (1.19) のスピンを含む箇所の計算結果.

$(\sigma_1, \sigma_2)$	$(1, 1)$	$(1, -1)$	$(-1, 1)$	$(-1, -1)$
$\sigma_1 \sigma_2$	1	-1	-1	1
$\sigma_1 + \sigma_2$	2	0	0	-2
$E_{N=2}$	$-J - 2\mu_0 H$	$J$	$J$	$-J + 2\mu_0 H$

磁化の期待値は, Eq. (1.4) と期待値の線形性から

$$\langle m \rangle = \frac{1}{N} \sum_{j=1}^N \mu_0 \langle \sigma_j \rangle \quad (1.11)$$

$$= \mu_0 \tanh(\beta \mu_0 H) \quad (1.12)$$

である.

**Definition 1.2** ( $H = 0$  での磁化率)

磁化率  $\chi$  を

$$\chi = \left. \frac{\partial m}{\partial H} \right|_{H=0} \quad (1.13)$$

と定める. 磁場  $H$  を揺すったときの磁石になりやすさと解釈できる.

磁化率も計算する.

$$\chi = \frac{\mu_0^2}{k_B T} \quad (1.14)$$

となる.

本筋とは外れるが, エントロピーを計算する. そのためにまず, Helmholtz free energy の計算をする.

$$F(\beta, H, N) = -\frac{1}{\beta} \log Z(\beta) \quad (1.15)$$

$$= -N k_B T \log \left( 2 \cosh \left( \frac{\mu_0 H}{k_B T} \right) \right) \quad (1.16)$$

ここから, エントロピーが計算できて,

$$S(\beta, H, N) = -\frac{\partial}{\partial T} F(\beta, H, N) \quad (1.17)$$

$$= N k_B \frac{\mu_0 H}{k_B T} \left( \cosh \left( \frac{\mu_0 H}{k_B T} \right) - \log \left( 2 \cosh \left( \frac{\mu_0 H}{k_B T} \right) \right) \right) \quad (1.18)$$

となり,  $H/k_B$  単位で現れる. これを用いて,  $(T_1, H_1) \rightarrow (T_2, H_2)$  の断熱準静操作を行うとき, エントロピーが普遍なので, この単位も不変である. 磁場  $H$  をゆっくり変えることで温度を変えることが<sup>i.</sup>できる. これを断熱消磁と呼ぶ.

### 1.3 ペアを形成し, ペア同士は独立な場合

次に, 二つの粒子が相互作用しペアを形成していて, ペア同士は相互作用していない状況を考える. 粒子数  $N$  はわかりやすく, 偶数としておく.

このときのエネルギー固有値は

$$E_\sigma = -J \sum_{j=1}^{N/2} \sigma_{2j-1} \sigma_{2j} - \mu_0 H \sum_{k=1}^N \sigma_k \quad (1.19)$$

とする. 第一項が相互作用による項で Heisenberg 交換相互作用とよばれる.

$J$  は物質による定数で,  $J$  が正の場合ペアのスピンは揃いやすく, 負の場合, 反対を向きやすい.

以上の設定で考える.

まず, ペアたちは独立なので,  $(\sigma_1, \sigma_2)$  だけ選んで考える. Eq. (1.19) にでてくる量を計算し, Table. 1.3 これで, 分配関数が計算できる.

$$Z(\beta) = e^{-\beta(-J-2\mu_0 H)} + 2e^{-\beta J} + e^{-\beta(-J+2\mu_0 H)} \quad (1.20)$$

$$= 2e^{\beta J} (\cosh(2\beta \mu_0 H) + e^{-2\beta J}). \quad (1.21)$$

<sup>i.</sup> 主に低温を作る.

エネルギー期待値は

$$\langle H \rangle = -\frac{\partial}{\partial \beta} \log Z(\beta) \quad (1.22)$$

$$= -\frac{N}{2} \frac{J(e^{-2\beta J} - \cosh(2\beta\mu_0 H)) - 2\mu_0 H \sinh(2\beta\mu_0 H)}{\cosh(2\beta\mu_0 H) + e^{-2\beta J}} \quad (1.23)$$

となる。ここで、 $H = 0$  とすると、

$$\langle H \rangle = -\frac{N}{2} \tanh \beta J \quad (1.24)$$

である。

spin のペアの期待値は

$$\langle \sigma_1 + \sigma_2 \rangle = \frac{1}{Z(\beta)} \left( 2e^{\beta(J+2\mu_0 H)} - e^{-\beta(J-2\mu_0 H)} \right) \quad (1.25)$$

$$= \frac{2 \sinh(2\beta\mu_0 H)}{\cosh(2\beta\mu_0 H/mf) + e^{-2\beta J}} \quad (1.26)$$

磁化は

$$\langle m \rangle = \left\langle \frac{1}{N} \sum_{j=1}^N \sigma_j \right\rangle \quad (1.27)$$

$$= \frac{1}{N} \sum_{j=1}^{N/2} \langle \sigma_{2j-1} \sigma_{2j} \rangle \quad (1.28)$$

$$= \frac{\sinh(2\beta\mu_0 H)}{\cosh(2\beta\mu_0 H) + e^{-2\beta J}} \quad (1.29)$$

$$= \frac{2\beta\mu_0^2 H + \mathcal{O}((\beta\mu_0 H)^3)}{1 + \mathcal{O}((\beta\mu_0 H)^2) + e^{-2\beta\mu_0 H}} \quad (1.30)$$

となる。最後は磁化率を求めるために  $H$  を含む幂で展開した。

磁化率は  $H$  で微分して  $H = 0$  とするので、二次以上の項は消えて、

$$\chi(\beta) = \left. \frac{\partial \langle m \rangle}{\partial H} \right|_{H=0} \quad (1.31)$$

$$= \frac{2\beta\mu_0^2}{1 + e^{2\beta J}} \quad (1.32)$$

となる。

## 1.4 一次元イジングモデル

エネルギー固有値は

$$E_\sigma = -J \sum_{\langle i,j \rangle} \sigma_i \sigma_j - \mu_0 H \sum_{i=1}^N \sigma_i \quad (1.33)$$

とする。ここで、 $\langle i,j \rangle$  は隣り合う  $i, j$  に関して和をとることを表し、周期的境界条件  $\sigma_{N+1} = \sigma_1$  を入れると、

$$E_\sigma = -J \sum_{i=1}^N \sigma_i \sigma_{i+1} - \mu_0 H \sum_{i=1}^N \left( \frac{\sigma_i + \sigma_{i+1}}{2} \right) \quad (1.34)$$

と書き換えることができる。

分配関数は

$$Z(\beta) = \sum_{\sigma} e^{E_\sigma} \quad (1.35)$$

$$= \sum_{\sigma} e^{\sum_{i=1}^N (\beta J \sigma_i \sigma_{i+1} + \beta \mu_0 H (\sigma_i + \sigma_{i+1})/2)} \quad (1.36)$$

$$= \sum_{\sigma_1=\pm 1} \cdots \sum_{\sigma_N=\pm 1} \prod_{i=1}^N e^{\beta J \sigma_i \sigma_{i+1} + \beta \mu_0 H (\sigma_i + \sigma_{i+1})/2} = \sum_{\sigma_1=\pm 1} \cdots \sum_{\sigma_N=\pm 1} \prod_{i=1}^N M_{\sigma_i, \sigma_{i+1}} \quad (1.37)$$

となる．行列  $M$  は転送行列とよばれ，

$$M = \begin{pmatrix} e^{\beta J + \beta \mu_0 H} & e^{-\beta J} \\ e^{-\beta J} & e^{\beta J - \beta \mu_0 H} \end{pmatrix} \quad (1.38)$$

である．さらに分配関数は計算できて，

$$Z(\beta) = \text{Tr} (M^N) \quad (1.39)$$

$$= \lambda_+^N + \lambda_-^N \quad (1.40)$$

で， $\lambda_{\pm}$  は転送行列の固有値で

$$\lambda_{\pm} = e^{\beta J} \cosh \beta \mu_0 H \pm \sqrt{e^{2\beta J} \cosh^2 \beta \mu_0 H - 2 \sinh \beta J} \quad (1.41)$$

である．

これを用いて，各物理量を求める．自由エネルギー密度は

$$f_N(\beta) = -\frac{1}{\beta N} \log Z(\beta) \quad (1.42)$$

$$= -\frac{1}{\beta} \log \lambda_+ - \frac{1}{\beta N} \log \left( 1 + \frac{\lambda_-}{\lambda_+} \right) \quad (1.43)$$

なので， $N \rightarrow \infty$  で  $f(\beta) = -\log \lambda_+ / \beta$  となる．

磁化は

$$m(\beta, H) = \frac{\mu_0 \sinh \beta \mu_0 H}{\sqrt{\sinh^2 \beta \mu_0 H + e^{-4\beta J}}} \quad (1.44)$$

で，磁化率は

$$\chi(\beta) = \beta \mu_0^2 e^{2\beta J} \quad (1.45)$$

である．

## References

[田崎 08] 田崎晴明．統計力学．新物理学シリーズ / 山内恭彦監修, No. 37-38. 培風館, 2008.